

第3回 災害廃棄物の処理指針に係る検討会議 議事概要

日時：平成23年11月4日（金曜日）10時から12時

場所：大阪府咲洲庁舎 45階会議室

出席者：山本座長、飯田座長代理、児玉委員、藤川委員

事務局：大江環境政策監、矢追循環型社会推進室長、磯田資源循環課長、大西産業廃棄物指導課長、資源循環課 佃課長補佐、下村課長補佐、舟橋総括主査、藤田主査、小西主査
（岩手県より）黒田災害廃棄物対策特命課長

議題（1）前回までの結果と新たな府民意見について

- 前回の会議の議事概要と議事録について確認した。
 - 事務局から論点と検討会議の結果および東日本大震災の災害廃棄物処理の指針（骨子案）について説明があり、確認した。
 - 事務局から新たな府民意見について主な意見の紹介があった。大多数が反対意見であり、約2000件の署名が寄せられた。
- 委員から府民意見を踏まえるとともに、どのようにクリアしていくか検討していきたいという意見があった。

議題（2）放射線の影響に対する考え方について

- 岩手県 黒田災害廃棄物特命課長より、岩手県の災害廃棄物の現状について説明があった。
- 近隣住民に説明をして一定の理解を得ているため、今のところ災害廃棄物処理に対する不安の声はない。
- 現在測定しているのは空間線量のみであるが、広域処理として災害廃棄物を県外に出すのであれば環境省のガイドラインに沿って測定を行う必要があると考えている。
- 岩手県内の空間線量については、すでにホームページで公開されており、文部科学省の測定についても既に終了し、11月半ばに公開されると聞いている。
- 東京都は広域での災害廃棄物受入第一号ということもあり、万全の体制で臨むということで、現地での測定は東京都の職員および東京都が委託した業者が測定を行っている。

- 事務局から大阪府の実態に合わせた被ばく線量の試算について説明があった。今回は直接埋立処分シナリオ（焼却灰運搬船操船業者、焼却灰ストックヤード業者、焼却灰ダンプ運転者）および焼却処理シナリオ（焼却灰積み下ろし業者）について試算したが、今後他のシナリオについても試算していく予定。

○委員から今回試算したシナリオについては、同じ作業員が行う作業をすべて足し合わせても8,000Bq/kg以下の焼却灰の条件であれば1mSv/年以下は担保できるとの意見があった。

☆大阪府の実態に合わせて他のシナリオについても試算し、1mSv/年以下が担保できるかチェックしていくこととなった。

- 事務局から処理の各工程ごとの放射性物質濃度や線量率についての考え方に関する資料のうち、埋立工程(資料7-1)について説明があった。
 - 埋立が想定される処分場は大阪府の所有施設ではなく近畿二府四県168市町村等が出資団体となっている大阪湾広域臨海環境整備センターの施設である。
 - 海面埋立については現段階では国から見解が出ておらず、周辺府県にとっても重要な問題となるため、事務局としては国の見解を早期に出すよう働きかけるという立場を示した。
- ☆最終処分について、海面埋立の検討はいったん保留とし、陸地での埋立について様々なシナリオを試算していくことになった。

議題(3) その他

- 次回の検討会議は11月24日(木曜日)の午後3時より開催することが決まった。会場に関しては事務局で調整し、後日通知することとなった。
- 検討会議について、当初は4回ということであったが、議論に時間がかかりそうなので回数を増やすこととなった。